

白糠高が模擬裁判

釧根初 2校とオンラインで

【白糠】白糠高校（田村信明校長）の3年生25人は16日、帯広北高校、清水高校の3年生とウェブ会議アプリ「Zoom（ズーム）」でつなぎ、オンライン模擬裁判を行った。このような形で行う模擬裁判は全国でも珍しく、釧根管内では初めての取り組み。

（森崎博史）

この取り組みは、各校でICTを用いた授業や新学習指導要領の実施に向け、社会と接続した授業の構築などを目的に、道教大釧路校の佐野比呂己教授が月例で開催している「国語を学ぶ会」に参加している3校の教諭が協力し、国語科の授業の中で行われた。

模擬裁判では、基本は事前に用意されていたシナリオに沿って進められたが、証人尋問などではアドリブの質問も認められ、誘導尋問とみられる質問には「異議あり！その質問は事件とは関係ありません」などの

この日は、芥川龍之介の「羅生門」で主人公の下人が太刀を老婆に突きつけ、衣服を奪い逃走したとして、下人が強盗の疑いで起訴されたとの模擬裁判を実施。各校の生徒が原告の老



Zoomで各校をつないで行われたオンライン模擬裁判

れ、被告人が無罪か有罪か、また有罪の場合はどの程度の刑を科すかについて、現役の弁護士も交え、被告に情状酌量の余地があるか

2グループ、無罪が1グループの判決となった。

被告人に5年の懲役を言い渡し、裁判長を務めた河原宇斗さん（17）は「みんなで相談し、太刀を売るなど他にも手段があったことを考慮し有罪とした。オンラインでこのような体験をできたことはとても勉強になった」と話していた。

や、現在の危機を避けるためやむを得ずの行為に当たる「緊急避難」が成立するかについて話し合った。その結果、懲役5年の有罪が